



2019年3月期決算
新中期経営計画「Triangle Plan 2022」
説明会資料

2019.5.30

日本電子株式会社

INDEX

1. 2018年度実績および2019年度予想
2. 前中期経営計画「Triangle Plan」の総括
3. 新中期経営計画「Triangle Plan2022」の概要
 1. 理科学・計測機器事業
 2. 産業機器事業
 3. 医用機器事業
 4. 新サービス

1. 2018年度実績および2019年度予想



2018年度決算実績 (PL)

- 売上高ならびに全ての利益項目が過去最高額を達成

連結数値 (PL)

	17年度 通期実績 ①	18年度 通期実績 ②	(単位：億円) 前年比 ②－①
1 売上高	1,046	1,113	67
2 売上原価	671	689	18
3 (原価率)	(64.1%)	(61.9%)	(△2.2%)
4 売上総利益	375	424	49
5 販管費	275	286	11
6 研究開発費	60	72	11
7 販売費及び一般管理費合計	336	358	22
8 営業利益	39	67	27
9 営業外収益	10	13	4
10 営業外費用	5	6	0
11 経常利益	44	74	31
12 特別利益	5	1	△4
13 特別損失	1	1	△0
14 税前当期純利益	48	75	27
15 法人税等	3	16	13
16 少数株主損益	-	-	-
17 当期純利益	45	59	14
為替レート(1\$=)	¥ 111	¥ 111	
為替レート(1€=)	¥ 131	¥ 129	

経常利益増減要因分析 (対 前年比)

(単位：億円)	
(A) プラス要因	55
1. 売上数量増	20
2. 原価改善等	31
3. 営業外収支改善	4
(B) マイナス要因	△24
1. 為替差 (円高)	△2
2. 販売管理費増	△11
3. 研究開発費増	△11
(A)+(B)	31

2019年度予想 (PL)

■ 連結売上高1,190億円/営業利益71億円/経常利益75億円/当期純利益50億円

連結数値 (PL)

(単位：億円)

	17年度 通期実績	18年度 通期実績 ①	19年度 通期予想 ②	前年比 ②-①
1 売上高	1,046	1,113	1,190	77
2 売上原価	671	689	736	47
3 (原価率)	(64.1%)	(61.9%)	(61.8%)	(△0.1%)
4 売上総利益	375	424	454	30
5 販管費	275	286	297	11
6 研究開発費	60	72	86	14
7 販売費及び一般管理費合計	336	358	383	26
8 営業利益	39	67	71	4
9 営業外収益	10	13	9	△4
10 営業外損失	5	6	5	△1
11 経常利益	44	74	75	1
12 特別利益	5	1	0	△1
13 特別損失	1	1	2	1
14 税前当期純利益	48	75	73	△2
15 法人税等	3	16	23	7
16 少数株主損益	-	-	-	-
17 当期純利益	45	59	50	△9
為替レート(1\$=)	¥ 111	¥ 111	¥ 110	
為替レート(1€=)	¥ 131	¥ 129	¥ 125	

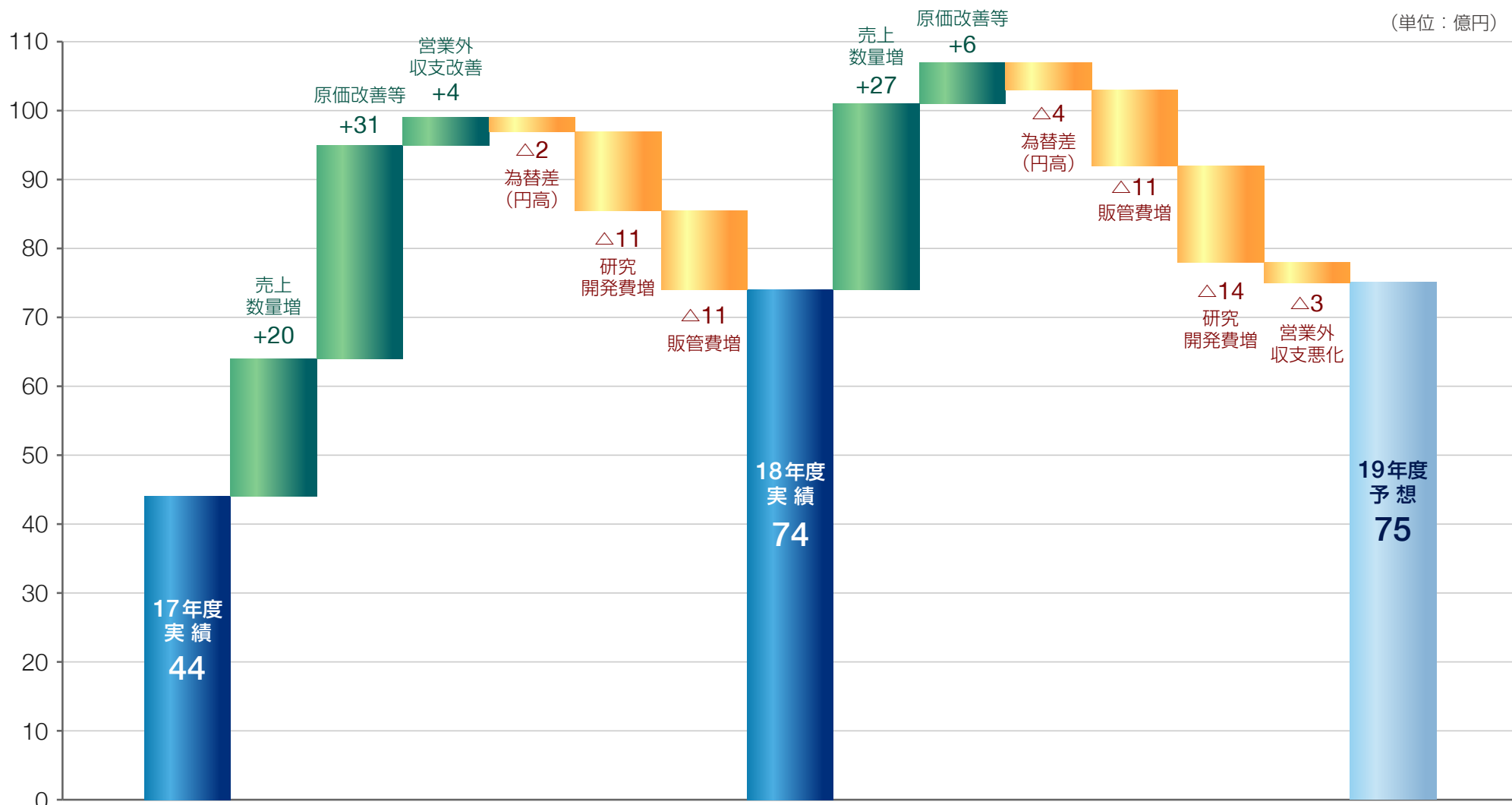
経常利益増減要因分析 (対 前年比)

(単位：億円)

(A) プラス要因	33
1. 売上数量増	27
2. 原価改善等	6
(B) マイナス要因	△32
1. 為替差 (円高)	△4
2. 販売管理費増	△11
3. 研究開発費増	△14
4. 営業外収支悪化	△3
(A)+(B)	1

利益の増減要因

経常利益増減分析



事業セグメント別連結売上高・営業利益の推移（通期）

（単位：億円）

		17年度 通期実績	18年度 通期実績	19年度 通期予想
全社	売上高	1,046	1,113	1,190
	営業利益	39	67	71
	経常利益	44	74	75
	当期純利益	45	59	50
理科学・計測機器事業	売上高	685	776	798
	営業利益	11	39	32
産業機器事業	売上高	167	166	221
	営業利益	48	50	68
医用機器事業	売上高	194	171	171
	営業利益	23	20	16
全社	費用	42	41	44
為替レート(1\$=)		¥ 111	¥ 111	¥ 110
為替レート(1€=)		¥ 131	¥ 129	¥ 125

主要勘定の推移

(単位：億円)

(連結)	17年度 通期実績	18年度 通期実績	19年度 通期予想
1 在庫	414	486	470
2 有利子負債	234	209	200
3 総資産	1,148	1,227	1,240
4 純資産 (自己資本比率)	374 (33%)	416 (34%)	454 (37%)
5 配当金 (円) ※注	16.00円	21.00円	24.00円
6 設備投資	27	28	29
7 減価償却費	27	28	29
8 連結受注高	1,116	1,189	1,200
9 連結期末受注残	376	452	462
10 海外売上比率	56.8%	58.6%	63.0%

※注

2018年10月1日を効力発生日として、普通株式2株を1株とする株式併合を実施
FY2017期首より株式併合が実施されたと仮定し算定

2. 前中期経営計画「Triangle Plan」の総括

数値計画・実績

- 売上高、営業利益は計画比未達ながら経常利益・当期純利益は計画を達成

(単位：億円)

	① 目標		② 実績			差異 ②-①	
	16年度	18年度	16年度	17年度	18年度	16年度	18年度
売上高	1,070	1,200	997	1,046	1,113	▲73	▲87
営業利益	30	75	21	39	67	▲9	▲8
経常利益	30	70	17	44	74	▲13	+4
当期純利益	18	42	6	45	59	▲12	+17
研究開発費	75	72	61	60	72	▲14	±0
販売管理費	282	294	267	275	286	▲15	▲8
自己資本	332	391	323	374	416	▲9	+25
自己資本比率	28%	31%	28%	30%	34%	+0%	+3%
ROE	6%	11%	2%	13%	15%	▲4%	+4%
為替レート (円)							
ドル	110	110	109	111	111	▲1	+1
ユーロ	120	120	119	131	129	▲1	+9

3. 新中期経営計画「Triangle Plan2022」の概要

基本的な考え方

- 創立70周年を迎える中「70年目の転進」として以下に取り組んでいく

1. コアテクノロジー強化

我々が社会に提供する付加価値の源泉であるハイエンドの計測・分析技術(=コアテクノロジー)を継続的に発展させていく

2. 成長市場への積極参入

コアテクノロジーをベースに、規模が大きくさらなる拡大が見込まれる市場(半導体機器/産業機器/バイオ・医用機器/海外)へ積極的に参入し成長を加速させる

3. トータルソリューションの提供

装置だけではなくユーザーのワークフロー全体を見据え、使い勝手の向上や効率化につながるサービス(トータルソリューション)を提供していく

4. 必要な投資と収益性向上への取組み

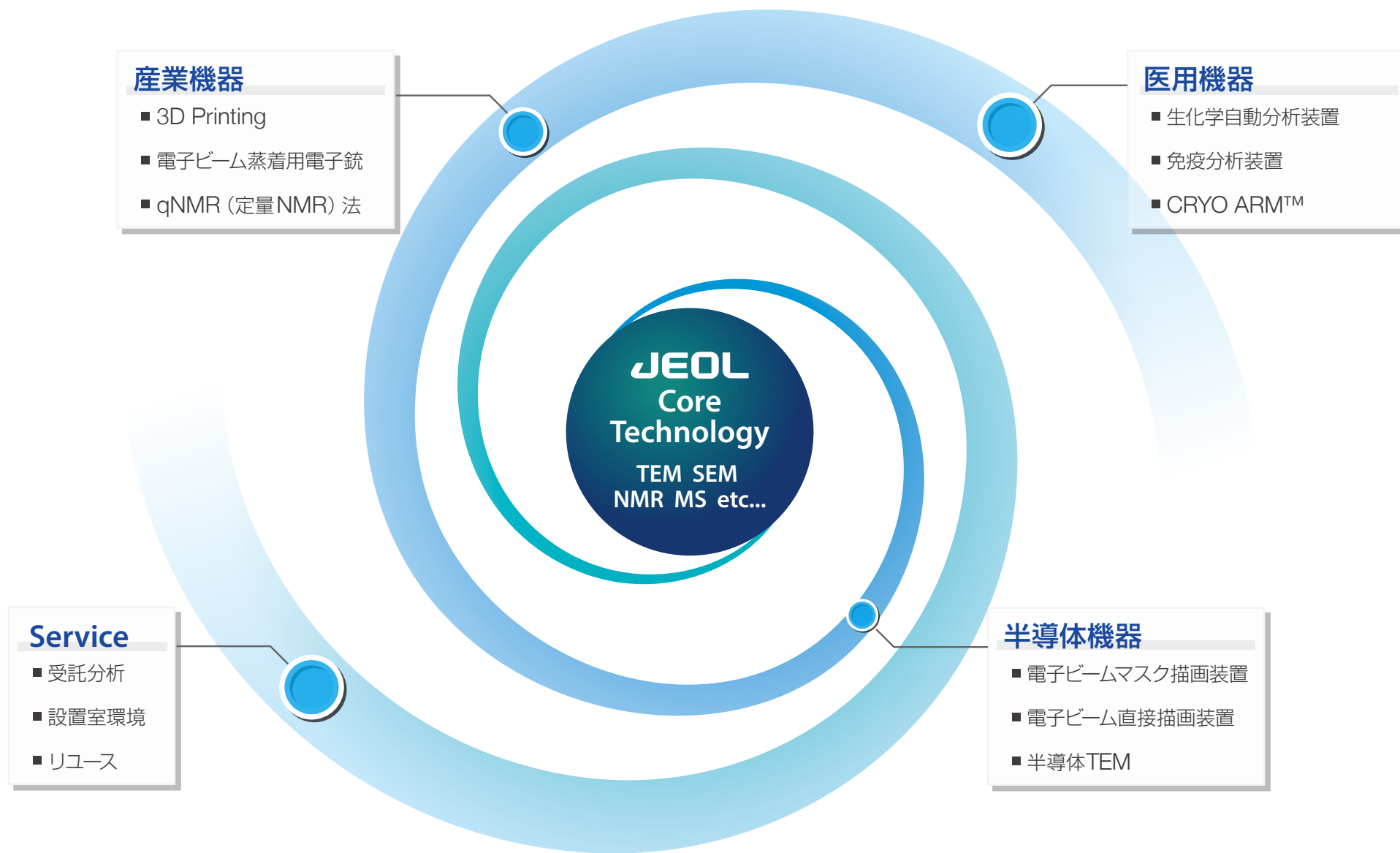
事業の規模や範囲が拡大していく中で事業機会を確実に取り込むため、必要な投資をタイムリーに行っていく
同時に効率化を推進し収益性の向上に不断に取り組む



以上により、2021年度に売上高1,340億円、経常利益100億円を達成する

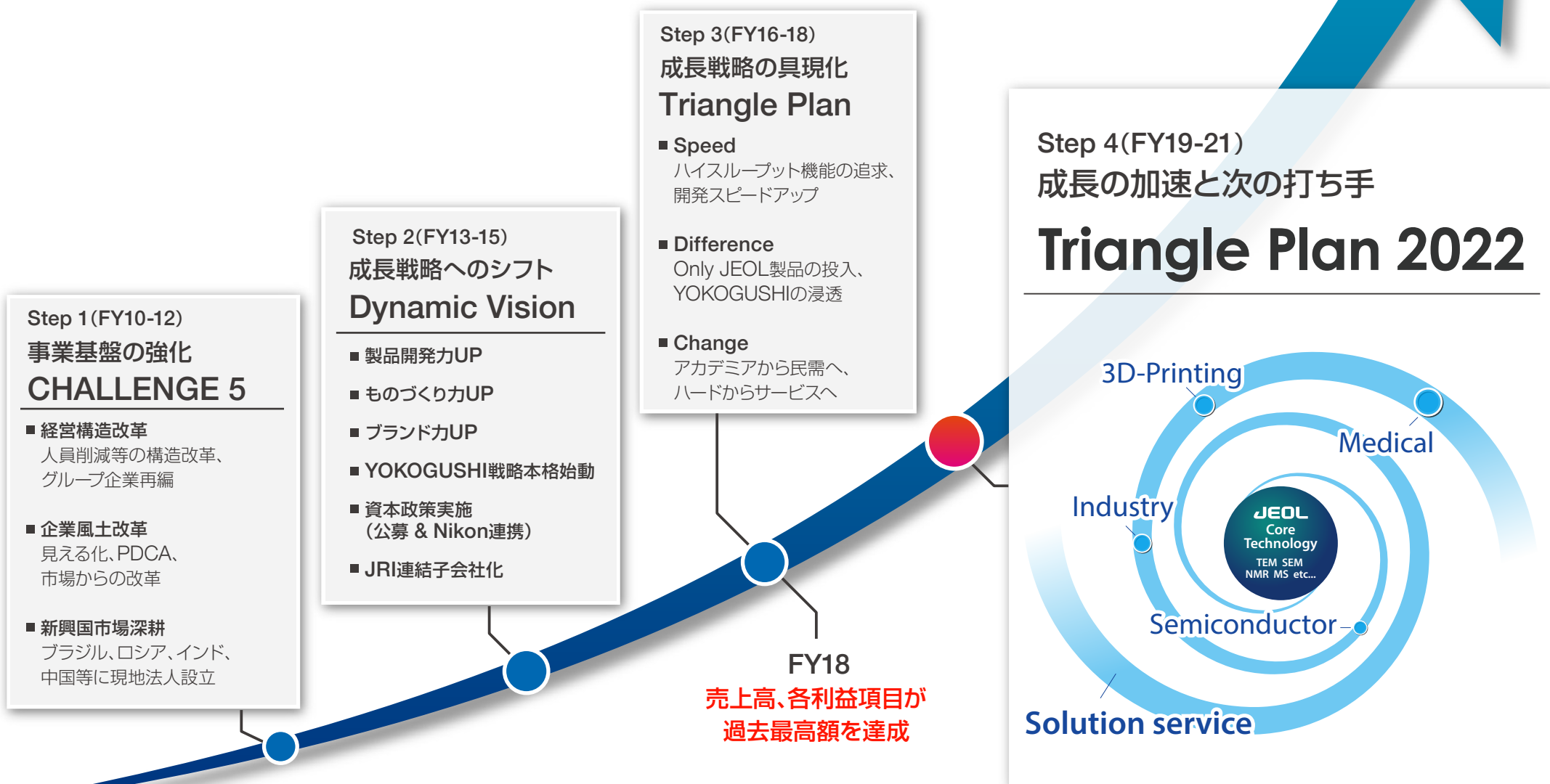
70年目の転進

- アカデミア市場をコアに半導体機器・産業機器・医用機器市場へ新たなソリューションを提供していくことで成長を加速させる



Triangle Plan 2022の位置づけ

- Triangle Planの方向性を基本としながら、70年目の転進による成長の加速と、新中期経営計画以降のさらなる成長に向けた次の打ち手を実行することで、長期にわたる継続的な成長を実現する



連結数値目標

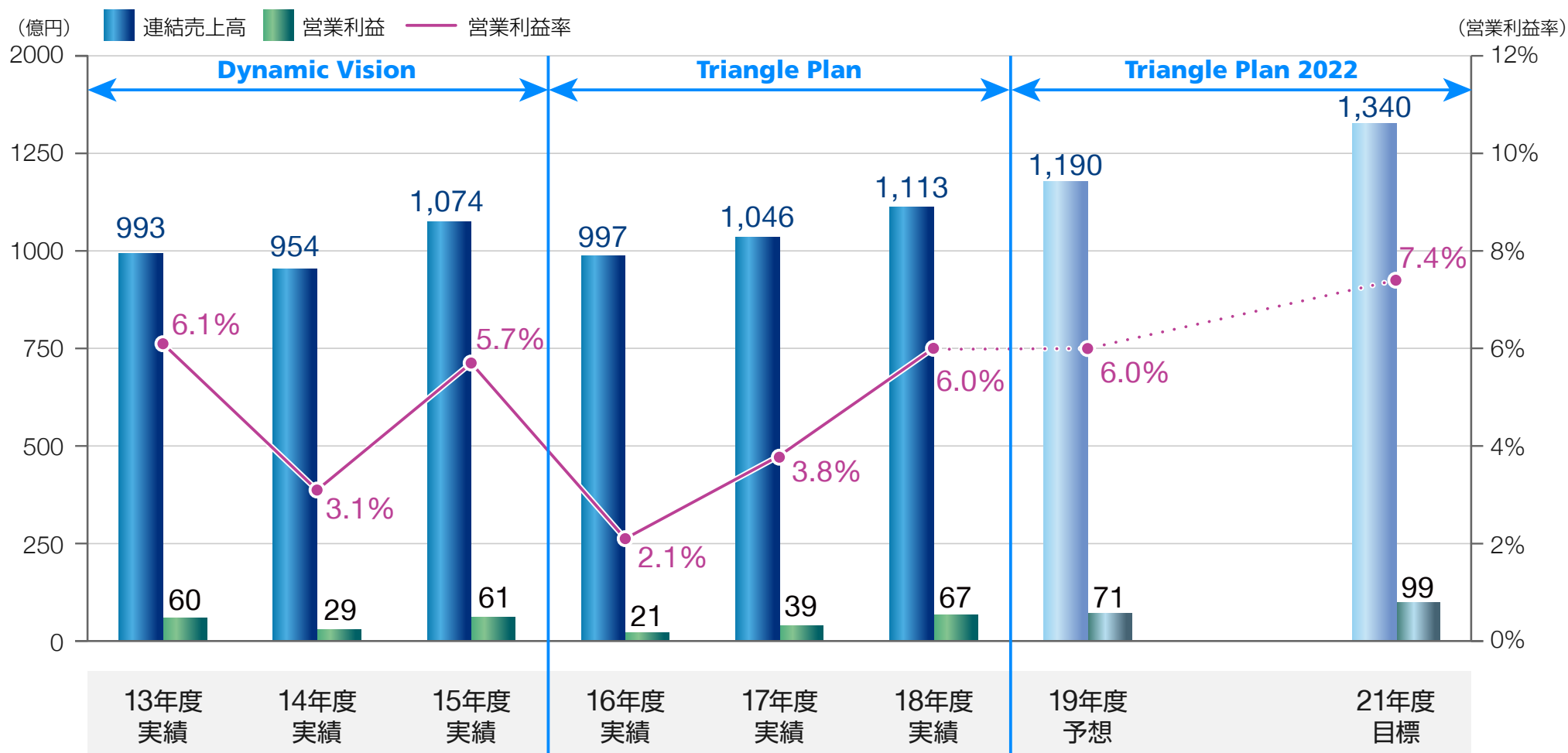
- 2021年度に連結売上高1,340億円、連結経常利益100億円の達成を目標とする
- 資本に関する目標として、自己資本比率は2021年度に40%を、ROEは継続的に10%以上を目指す

(単位：億円)

		実績	予想	目標
		2018FY	2019FY	2021FY
PL項目	売上高	1,113	1,190	1,340
	営業利益 (営業利益率)	67 (6.0%)	71 (6.0%)	99 (7.4%)
	経常利益 (経常利益率)	74 (6.7%)	75 (6.3%)	100 (7.5%)
	為替レート (円)	1\$=111円	1\$=110円	1\$=110円

業績推移

連結売上高・営業利益推移



為替レート(1\$=)

¥ 100

¥ 110

¥ 120

¥ 109

¥ 111

¥ 111

¥ 110

¥ 110

セグメント別数値目標

(単位：億円)

			実績	予想	目標
			2018FY	2019FY	2021FY
理科学計測機器	PL項目	売上高	776	798	882
		営業利益*	39	32	44
		(営業利益率)	(5.0%)	(4.0%)	(5.0%)
産業機器	PL項目	売上高	166	221	278
		営業利益*	50	68	84
		(営業利益率)	(30.0%)	(30.7%)	(30.2%)
医用機器	PL項目	売上高	171	171	180
		営業利益*	20	16	20
		(営業利益率)	(11.5%)	(9.1%)	(11.0%)
※全社費用配分前					
全社費用			41	44	49

SDGsへの取り組み JEOLの特徴を生かした事業展開を通してSDGs目標の達成に貢献する

目 標

具体的な取り組み



3 すべての人に
健康と福祉を

- 血液検査用の生化学分析装置の販売
- ダイオキシン類分析専用質量分析計の販売
- 臭素系難燃剤であるPBBやPBDEを高感度、高精度で定量、定性分析できる装置の販売
- 食品中の残留農薬を高効率、高精度で分析できる装置の販売



4 質の高い教育を
みんなに

- 小、中学校向けに理科支援授業の10年以上にわたる継続的な実施



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

- ECOモードを搭載した電子顕微鏡の販売
- エネルギー使用効率の向上に向けた継続的な取り組みの実施（照明のLED化、氷蓄熱空調機の導入、建物への遮熱塗装の実施など）



11 住み続けられる
まちづくりを

- LED、太陽電池、有機ELなどのグリーンデバイスの研究開発に必要な電子顕微鏡や核磁気共鳴装置の研究開発ツール群を提供
- LED電極形成用の電子銃などグリーンデバイスの製造装置用コンポートネット製品を提供
- RoHS指令に対応した製品の提供



12 つくる責任
つかう責任

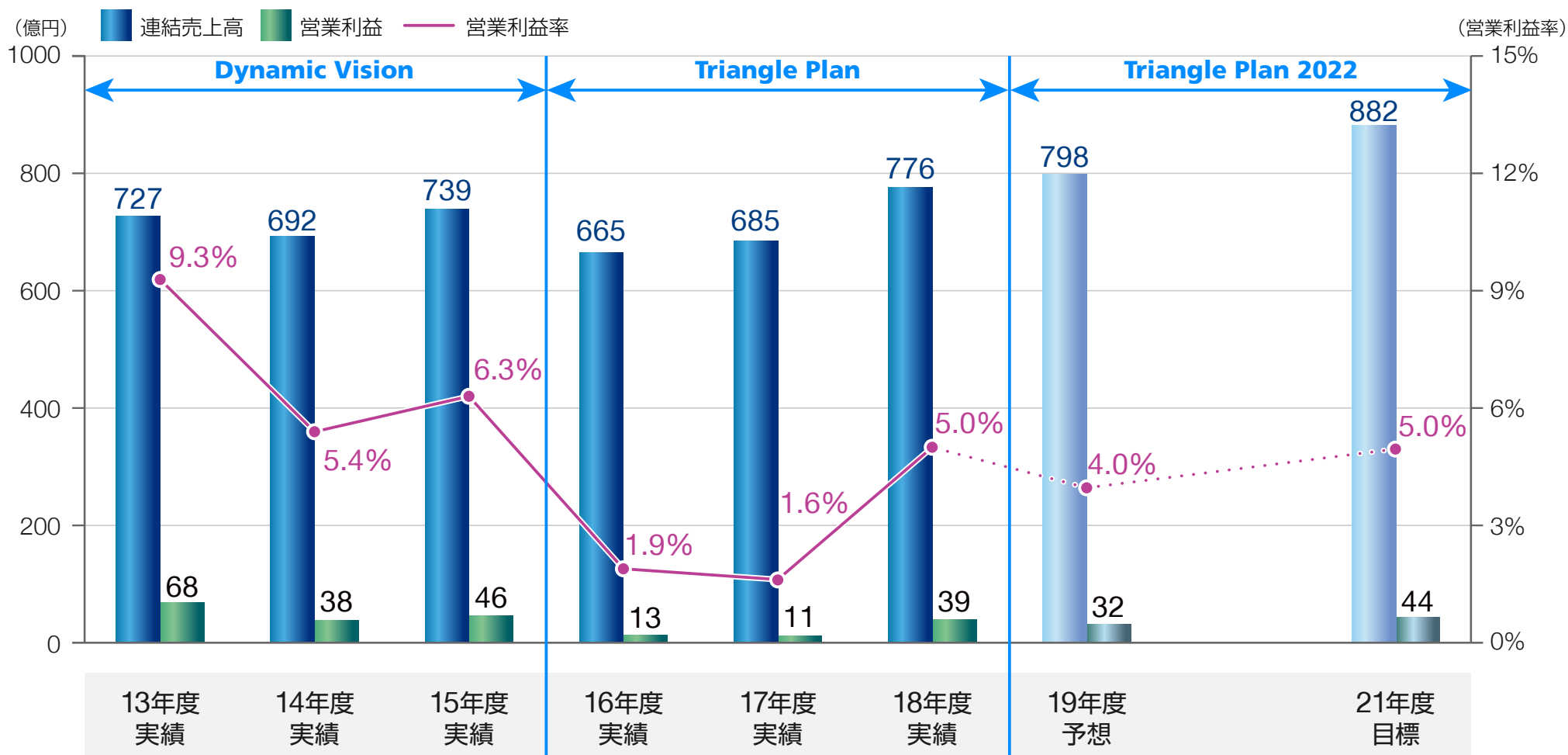
- 土壌汚染物質であるクロロエチレンを現場で分析できるソリューションの提供
- 特定化学物質を含有しない製品の開発、設計の推進、ならびに取引先との契約への反映
- 適切な化学物質管理、廃棄物管理の実施
- 工場において複数の協力企業作業員が同じ社屋内で一貫した生産を行うことにより、部材やユニットの搬送を無くすことで燃料・排気ガス等を低減

理科学・計測機器事業



理科学計測機器数値目標

連結売上高・営業利益推移（理科学・計測機器セグメント）



為替レート(1\$=)

¥ 100

¥ 110

¥ 120

¥ 109

¥ 111

¥ 111

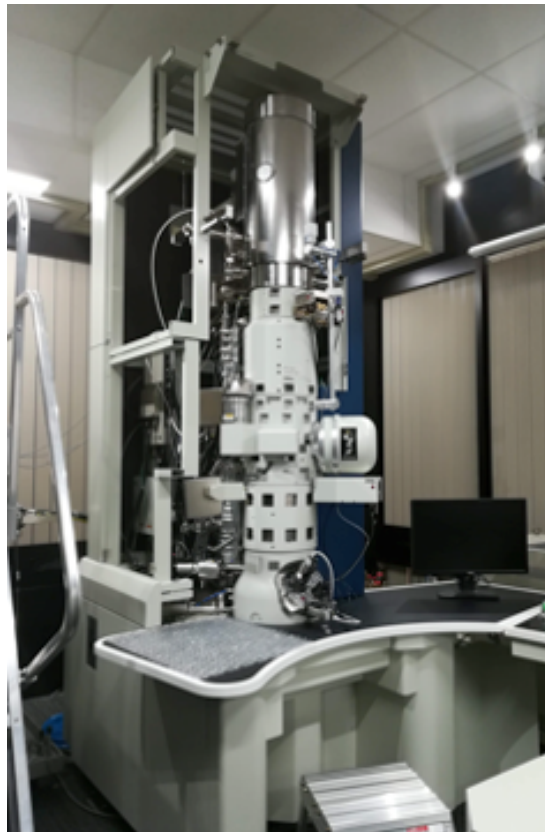
¥ 110

¥ 110

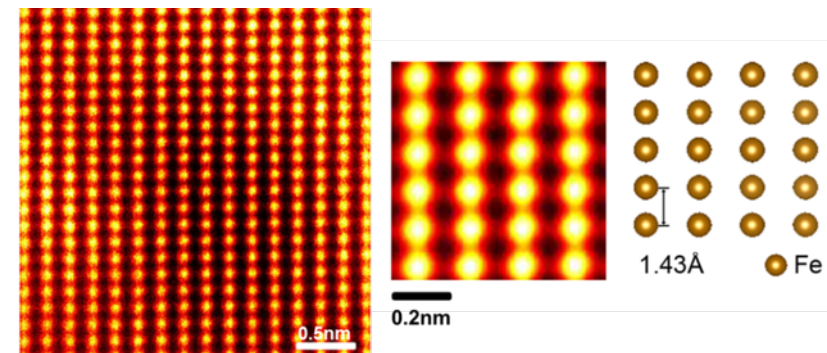
原子分解能磁場フリー電子顕微鏡の開発に成功

- 磁石や鉄鋼など、磁場の影響のために今まで原子構造の観察が困難だった材料の直接観察に成功
- 今後は、電気自動車で使われる永久磁石や電磁鋼板、高密度な磁気記録媒体など優れた磁性材料の研究開発に必要な不可欠な先端計測機器となることが期待される

新開発した原子分解能磁場フリー電子顕微鏡



電磁鋼板 (Fe-3%Si) 結晶中の原子観察例



科学技術振興機構 (JST)、東京大学、
日本電子株式会社の共同開発

新製品 JCM-7000の紹介

- 光学像からSEM観察、元素分析まで高い操作性を実現した卓上SEM

「誰でもSEM/EDSを操作できる」をコンセプトに
製造現場における異質分析、品質管理にも最適

JCM-7000

(2019年3月販売開始)

Zeromag

光学像からSEM観察へのスムーズな移行
が可能

Live Analysis

観察しながらリアルタイムで元素分析が可能

Live 3D (新機能)

観察しながらリアルタイムで三次元構築が可能



理科学・計測機器事業 近年市場に投入した新製品が、増収・増益に貢献



透過電子顕微鏡
JEM-ARM200F NEOARM



透過電子顕微鏡
JEM-F200



透過電子顕微鏡
JEM-1400Flash



走査電子顕微鏡
JSM-7900F



走査電子顕微鏡
JSM-7610FPlus



走査電子顕微鏡
JSM-IT500HR



卓上SEM
JCM-7000



複合ビーム加工観察装置
JIB-4700F

半導体TEMの拡販

- 半導体計測TEM市場に向け、各社の個別ニーズに応じたソリューションを提供

半導体TEMが目指す方向性

自動化／高スループット化／高精度化／簡単レシピ作成



JEM-ACE200

自動化レシピ

各社の個別ニーズ

- ・STEM高分解能測長・分析
- ・TEM検査・測長
- ・その他客先個別要求

Cryo-TEMの拡販

- CRYO ARM™ 300により、1.54Åの分解能を達成 (2019年2月)
- タンパク質構造解析市場でのシェアアップを目指す

Cryo-TEMシリーズ



F200-CRYO



CRYO ARM™ 200



CRYO ARM™ 300

国内外NMR販促強化

- 国内：販売力の一層の強化によるシェアアップ
- 海外：成長市場である海外において、認知度向上と顧客サポート力の拡充により販売台数を向上

NMRシリーズ



ECZ-S



ECZ-R

TQ4000GCの拡販

- 新型 GC-QqQ である JMS-TQ4000GC のシェアアップを目指し、特に海外での拡販活動を強化する

- 1 | 海外における認知度向上に向けて、
関係学会・展示会での露出度のアップ
- 2 | 学会誌・情報誌（オンラインを含む）
を經由した顧客への情報発信の強化
- 3 | アプリケーション構築に向けて
人的サポートを強化
- 4 | 基本性能向上に向けた装置・ソフトウェア
改良の継続



GC/QMS JMS-TQ4000GC

中国市場の確実な取り込み

- 科学技術投資への拡大が続く中国市場で、更に販促活動に注力することでシェアアップ、受注拡大を実現

具体的な施策

新規採用の推進と組織体制の強化

パーツ供給体制・サービス体制の強化

ユーザー向け各種スクール・講習会の開催

展示会への積極出展による知名度の向上と販促強化

上海ソリューションセンターの拡大と機能強化

卓上SEM拡販に向けての代理店網強化

WEB-SITEの充実と最大活用

など

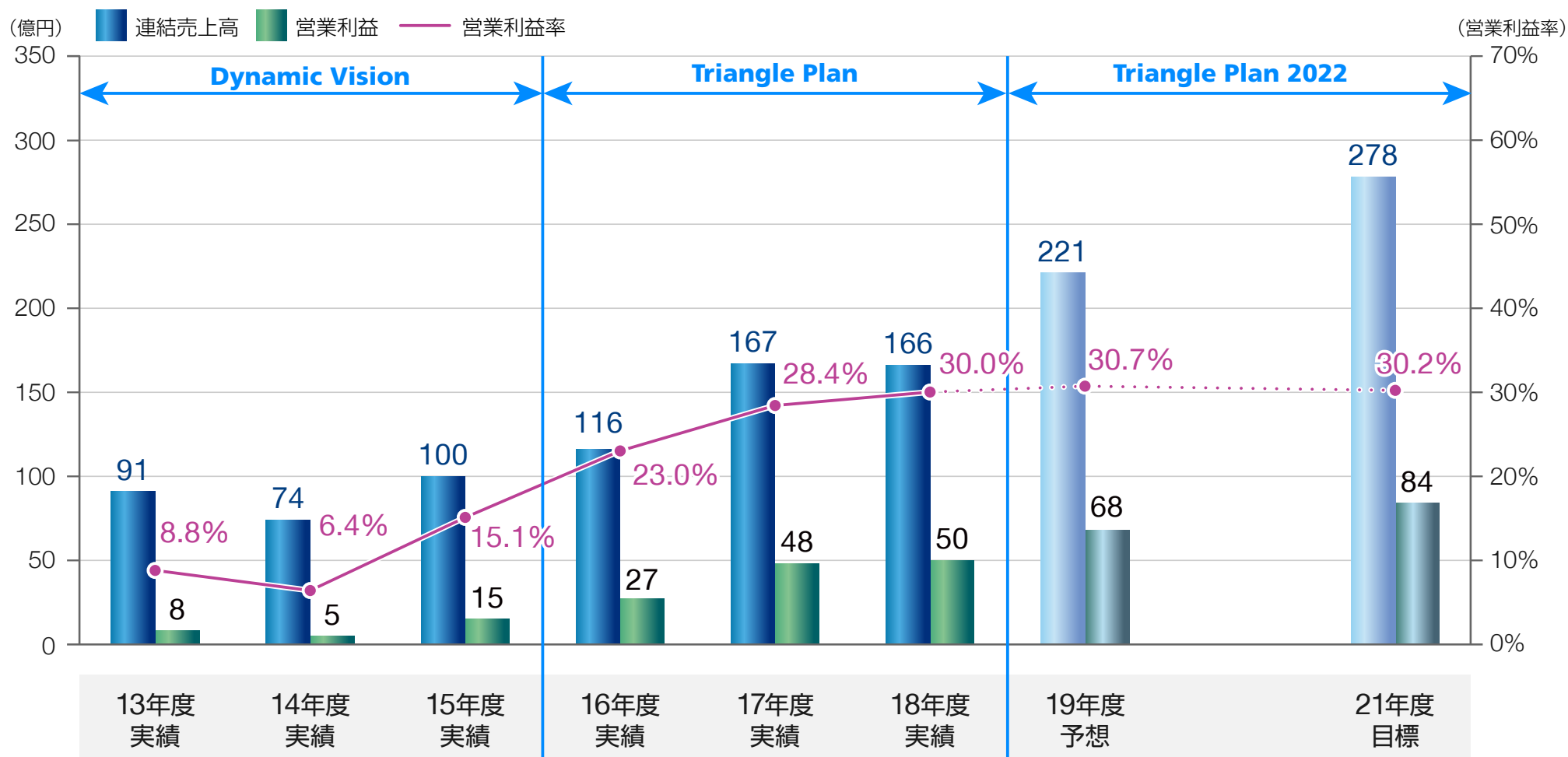


産業機器事業



産業機器数値目標

連結売上高・営業利益推移（産業機器セグメント）



為替レート(1\$=)

¥ 100

¥ 110

¥ 120

¥ 109

¥ 111

¥ 111

¥ 110

¥ 110

産業機器事業 次世代型産業用3Dプリンタ（2019年度 販売開始予定）

- 拡大する金属材料3Dプリンタ市場へ向け開発中

TRAFAM 1次試作機



TRAFAM 2次試作機



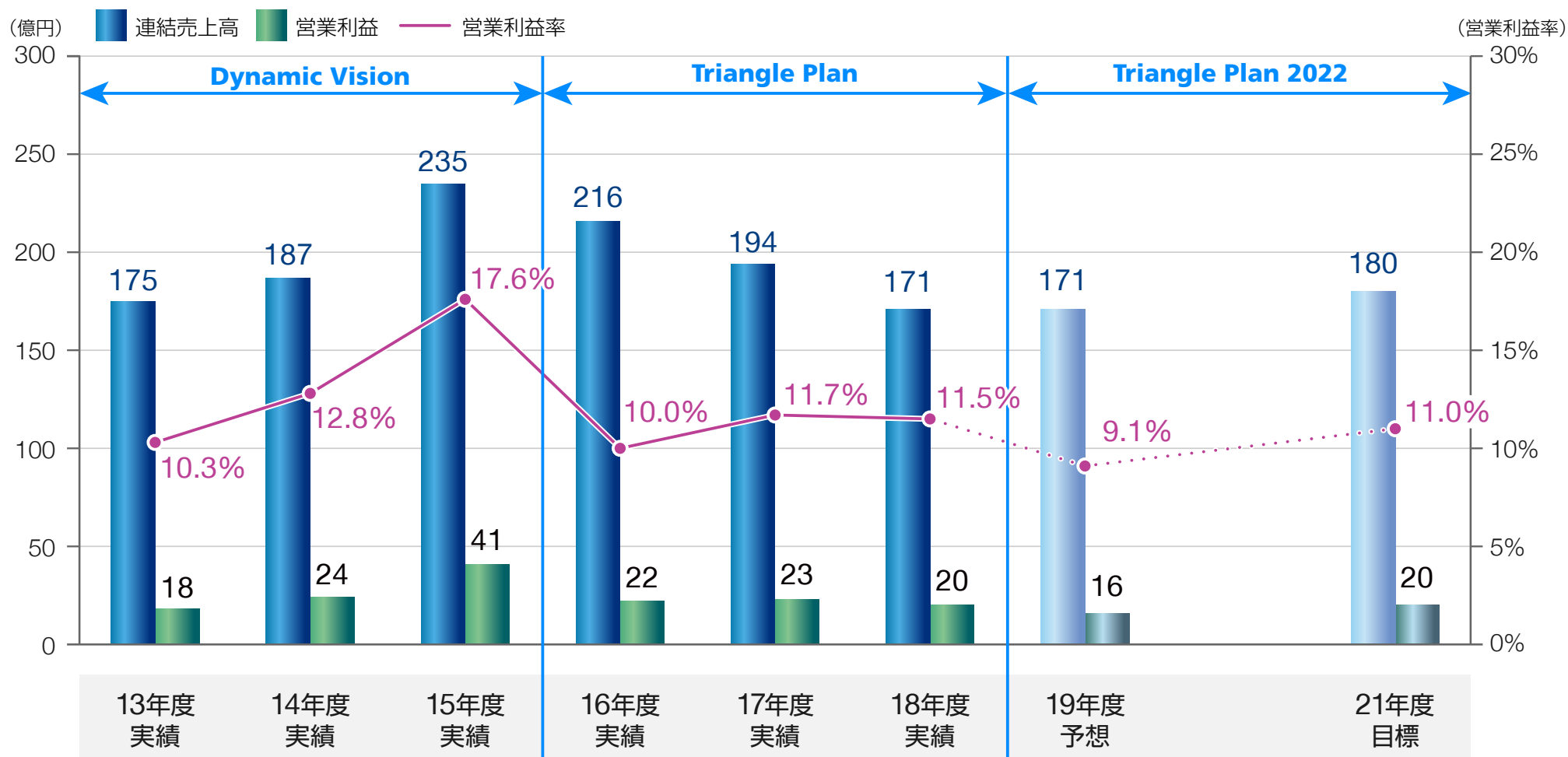
※ TRAFAM（技術研究組合次世代3D積層造形技術総合開発機構）

医用機器事業



医用機器数値目標

連結売上高・営業利益推移 (医用機器セグメント)



為替レート(1\$=)

¥ 100

¥ 110

¥ 120

¥ 109

¥ 111

¥ 111

¥ 110

¥ 110

医用機器事業 海外における販売体制の整備

- 各販売地域の特徴に合わせ販売網を着実に広げていく

欧州 (DIASYS、堀場製作所)

・JEOL (GERMANY) GmbHをデモ拠点とした
既存代理店の拡販および新規代理店の開拓が着実に進行

北米 (堀場製作所)

・JCA-BM6010/CのFDA販売認証を取得

中国およびアジア新興国 (シスメックス、富士フィルム)

・各国へ販売機種の認証準備
・既存代理店の拡販および新規代理店の開拓が着実に進行

中東・アフリカ地域 (富士フィルム)

富士フィルムとJCA-BM6010/Cの
販売提携に合意

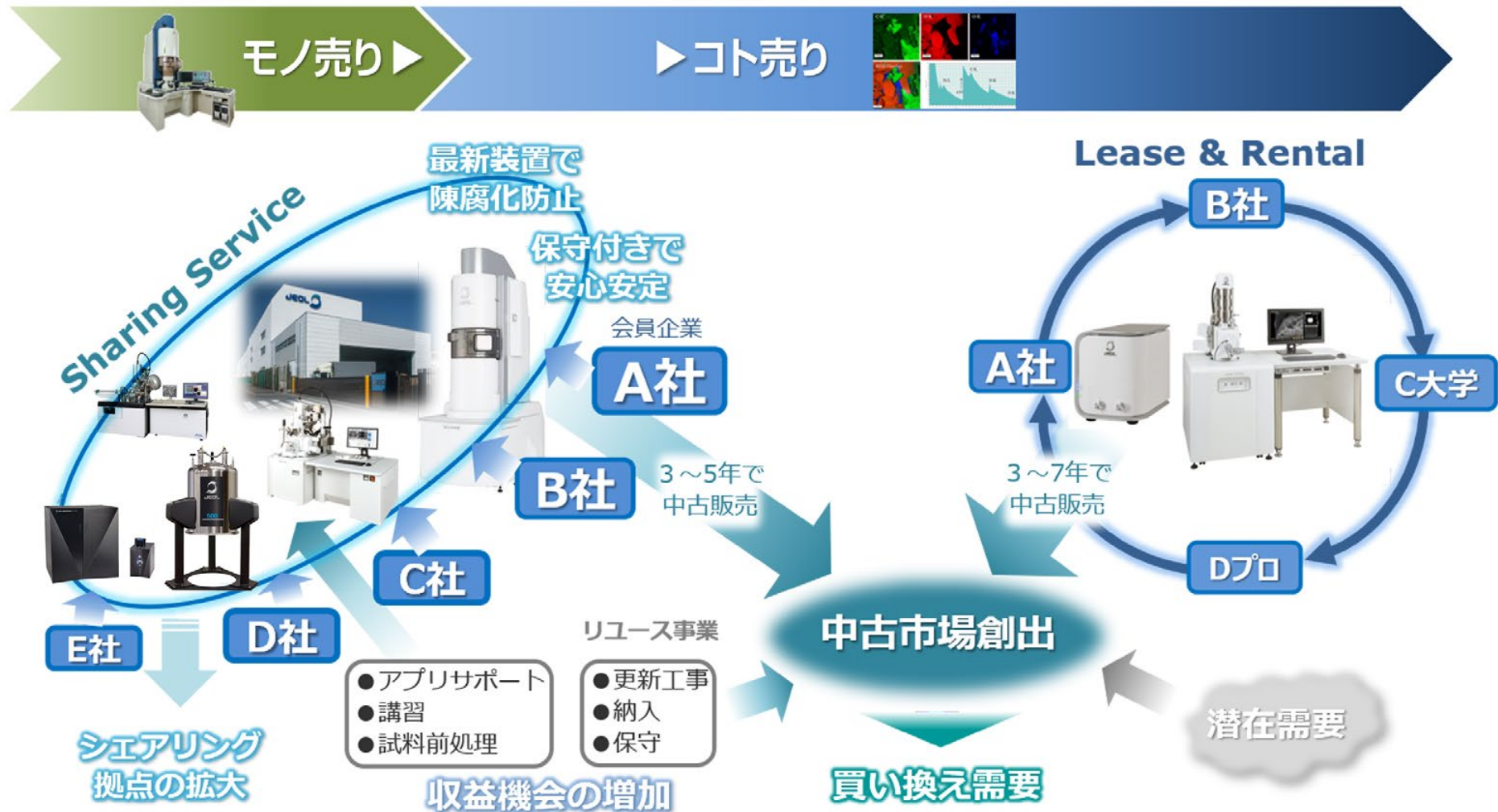
※()内は連携先

新サービス



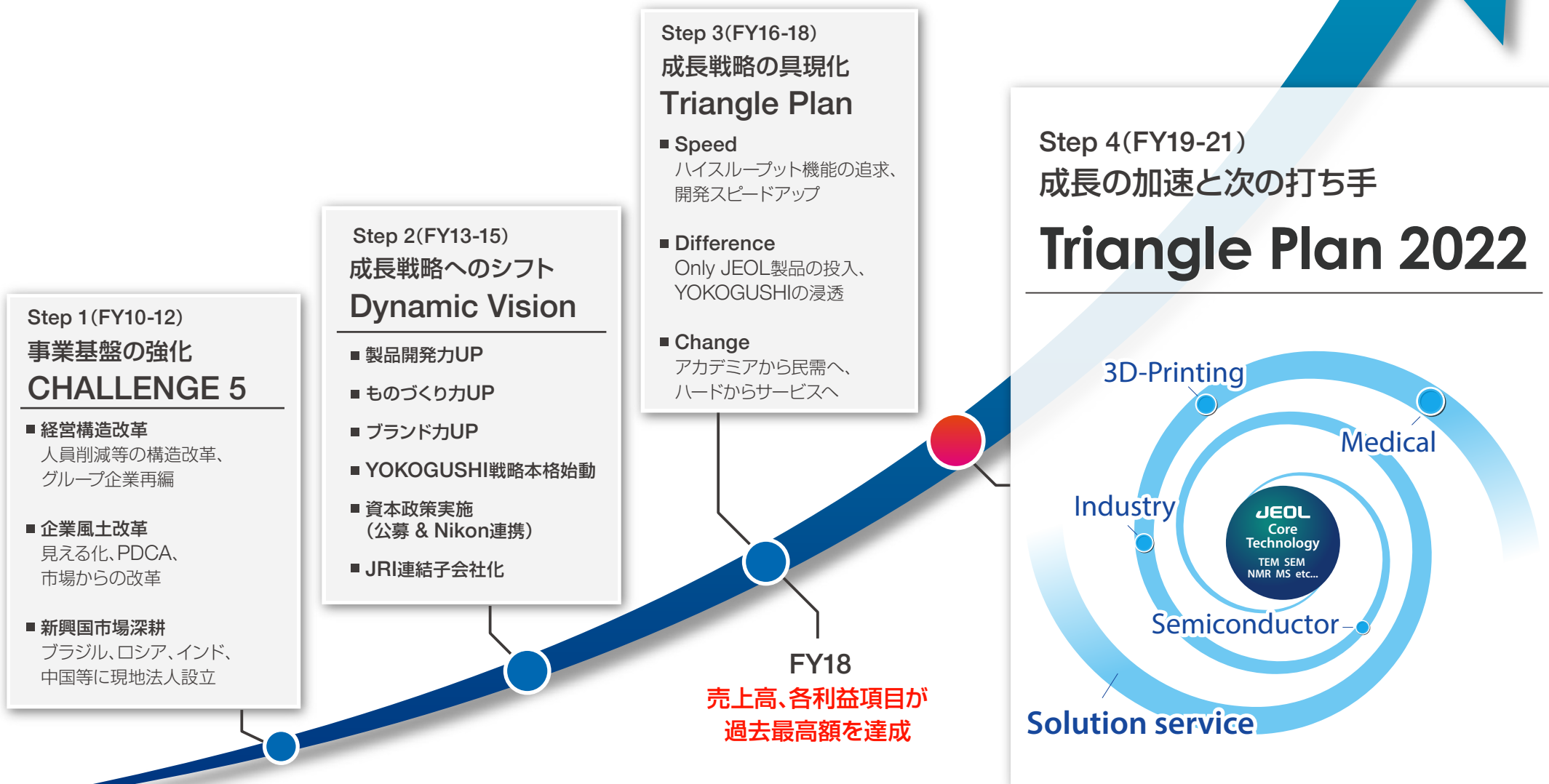
レンタル・シェアリングによる収益機会・中古市場の創出

- 高磁場NMRやオージェなどのハイエンド装置のシェアリングビジネス推進
- 戦略的な協業による顧客ニーズにマッチしたプラン/ サービスの提供
- 新たな市場として「中古市場」の拡大による収益力の強化



まとめ

- Triangle Planの方向性を基本としながら、70年目の転進による成長の加速と、新中期経営計画以降のさらなる成長に向けた次の打ち手を実行することで、長期にわたる継続的な成長を実現する



個別事業の方向性(ご参考資料)

世界市場規模 (M\$)	2017	2018	2019	2022	17-22(CGR)
	609	649	687	802	5.7%

出典：The 2018 Global Assessment Report, Strategic Directions International, Inc.

マーケット動向

- 透過電子顕微鏡は、グリーンテクノロジー、ナノテク、材料、ライフサイエンス等の基礎研究や半導体デバイス、電池等の開発に不可欠の装置であり、市場が拡大。
- 先進国でもライフサイエンス市場を中心に需要の衰えは見え、中国や新興国では市場が拡大している。

技術・製品と戦略

- 世界最高クラスの空間分解能と分析能力を持つ[JEM-ARM300F] のさらなる性能アップ。好評。
- ハイエンドでのベストセラー機 [JEM-ARM200F],[JEM-ARM200F ACCELARM] に続く新製品 [JEM-ARM200F NEOARM] を市場投入。引き続き堅調。
- 急拡大するバイオ、創薬市場におけるタンパク質の構造解析ニーズに向け、ARMシリーズの高安定鏡筒とユニークな冷陰極FEGを使用した[JEM-Z300FSC CRYO ARM™ 300]を市場投入。4年に一度開催される国際顕微鏡学会でも好評。
- 生物分野や高分子材料分野に向けて、低倍から高倍までの観察スループットを向上した[JEM-1400Flash] を市場投入。



JEM-Z300FSC CRYO ARM™ 300



JEM-ARM200F NEOARM



JEM-ACE200F

世界市場規模 (M\$)	2017	2018	2019	2022	17-22(CGR)
	375	407	417	453	3.9%

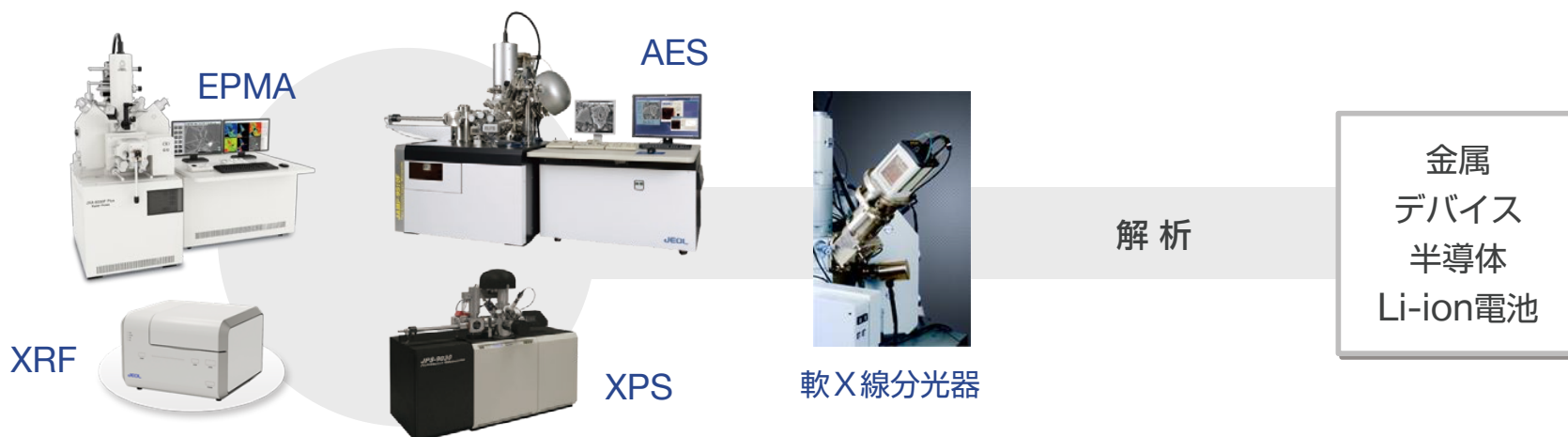
出典：The 2018 Global Assessment Report, Strategic Directions International, Inc.

マーケット動向

- 金属（鉄鋼/非鉄）、材料、デバイス、電池、半導体等の基礎研究から産業応用まで幅広い分野において不可欠の装置であり、市場は拡大。
- 特にグリーンテクノロジー・半導体分野での需要が増加。
- 地域別では中国、アジアで需要が伸長。

技術・製品と戦略

- FE 型の EPMA[JXA-8530FPlus] が CLEM（光電子相関顕微鏡）などの周辺機器と共に国内外市場から高い評価。
- 微量軽元素分析や状態分析において幅広い分野から評価されている、当社独自技術である軟X線分光器に新型の分光器を追加。これにより遷移金属まで分析対象が拡大。
- 表面分析装置はリチウムイオン電池やグラフェンに関する材料解析の強力なツール。グリーンテクノロジー・半導体分野の国内外ホットマーケットで拡販強化。
- 蛍光X線分析装置では食品異物分析、有害重金属スクリーニング需要に対し拡販強化。



世界市場規模 (M\$)	2017	2018	2019	2022	17-22(CGR)
	1,752	1,878	1,985	2,292	5.5%

出典：The 2018 Global Assessment Report, Strategic Directions International, Inc.

マーケット動向

- ナノテク、材料、電池、半導体デバイス等の基礎研究から品質管理等の産業応用まで幅広い分野において不可欠な装置であり市場が拡大している。
- 先進国でも需要の衰えは見え、新興国では市場が拡大している。

技術・製品と戦略

- 新開発の電子光学系制御を搭載し、高分解能と操作性を両立したハイエンドフィールドエミッション型SEM [JSM-7900F] が引き続き好調。
- 高機能性と使いやすさを追求した卓上型SEM[JCM-7000] を市場投入。民需を中心として販売拡大を見込む。
- 高輝度電子銃を搭載したミドルクラス汎用型SEM[JSM-IT500HR] を市場投入。販売拡大を見込む。



JCM-7000



JSM-IT500HR



JSM-7900F

世界市場規模 (M\$)	2017	2018	2019	2022	17-22(CGR)
	836	863	890	969	3.0%

出典：The 2018 Global Assessment Report, Strategic Directions International, Inc.

マーケット動向

- 材料開発、ライフサイエンス、創薬、化学等の基礎研究に不可欠の装置であり、先進国および新興国の研究開発費の伸びに支えられて市場が拡大。
- 近年、NMRの持つ絶対定量性を活用した定量NMR(qNMR)法が注目され、標準物質の純度検定や医薬品生産工程における品質管理市場で普及が始まっている。

技術・製品と戦略

- JNM-ECZシリーズの性能と品質が市場で高く評価され、海外販売比率が急増しているが、それを更に進める。
- qNMRの標準化を進め品質管理分野におけるNMR市場の拡大を図る。具体的には、「新市場創造型標準化制度」を活用し、2018年1月に、qNMRのJIS規格を発行し、さらに、ISO化を目指した国際ワークショップ「qNMRsummit」開催した。また、Mestrelab社との業務提携により、qNMR自動分析システムを共同開発し、新規顧客を開拓する。
- 通常の測定モードに加えフッ素核と水素核を同時に使えるモードを備えた新型NMRプローブを世界で始めて商品化した。このプローブにより、素材、医薬品解析分野における製品競争力が強化された。
- 固体NMR用自動試料交換装置を市場投入する。この自動試料交換装置は、溶液NMRと兼用できるという他社にない特徴を備えており、ルーチンNMR市場における製品競争力が大幅に強化された。



ROYALプローブ™ HFX



JNM-ECZ500R

世界市場規模 (M\$)	2017	2018	2019	2022	17-22(CGR)
	4,081	4,375	4,669	5,634	6.7%

出典：The 2018 Global Assessment Report, Strategic Directions International, Inc.

マーケット動向

- 最先端のライフサイエンスから品質管理／環境分析等の広範な市場を形成しており、市場規模と成長率で最大級の分析装置である。
- 環境分析、ライフサイエンス分野、材料解析等、それぞれの市場セグメントに適した製品群が市場に提供されている。中でも環境分析とライフサイエンス分野での成長が大きい。
- 今後、農薬分析、ダイオキシン分析などの環境分析の分野で GC-QqQ 市場の大きな成長が期待されている。

技術・製品と戦略

- 今後大きな成長が期待される環境分析の分野へ高いスループットを持つ三連四重極質量分析計 [GC/QMS JMS-TQ4000GC] を新たに市場投入することで、この市場に新規参入し、一定のシェアを獲得する。
- 17m の飛行距離を持つ飛行時間質量分析計 [JMS-S3000 SpiralTOF™] の材料研究開発分野での高評価を受け、販売拡大。



GC/QMS JMS-TQ4000GC



JMS-S3000 SpiralTOF™

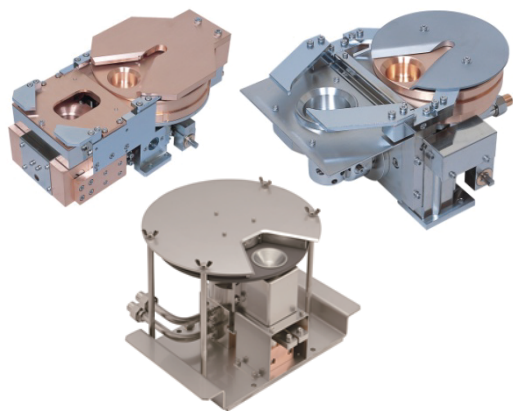
マーケット動向

- スマホカメラや車載カメラ、監視カメラへの高機能光学膜の需要は拡大傾向。
- 光通信デバイス、ミリ波デバイス生産用として電子ビーム直接描画装置へのニーズが高まっている。
- IoT,3Dメモリー,車載デバイスなど半導体デバイス産業は市場規模を拡大している。

技術・製品と戦略

- 赤外カメラや赤外線センサ向けに低欠陥、低光損失を可能とするボンバード蒸着源を市場投入。
- 熱プラズマを利用したナノ粒子合成や球状化粉体の新規応用分野を関連企業とコラボして市場開拓中。
- スポット型電子ビーム直接描画装置の最新鋭機「JBX-8100FS」を市場に展開中。
- IMS 社との連携による最先端マスク製作用マルチビーム描画装置が市場より受け入れられ拡販中。

真空蒸着用偏向銃



真空蒸着用ボンバード蒸着源



JBX-8100FS

マーケット動向

- 生化学自動分析装置および免疫分析装置の市場が引き続き堅調。
- 海外は、昨年に引き続き中国を中心とした新興国市場が拡大。

技術・製品と戦略

- 生化学自動分析装置「BioMajesty™ZERO JCA-ZS050」と全自動化学発光酵素免疫測定システム「ルミパルス®L2400」との連結機「FUXION+」を富士レビオ社が市場投入。
- 省スペースに多機能と使いやすさを凝縮した生化学自動分析装置「JCA-BM6010 G type」を市場投入。
- 国内は、検査センターを中心としてBM8000シリーズの買い替え需要が引き続き堅調。
- 自社ブランドおよび代理店による海外展開を推進するためJEOL (GERMANY) GmbHへ駐在員を派遣しデモ機を設置。
- ソリューションビジネス(試薬・消耗品・サービス等の売上)の更なる強化による収益性の安定化を促進。



生化学自動分析装置
JCA-BM6010G



生化学・免疫連結機
FUXION+

※FUXION+は富士レビオ株式会社の商標です
※ルミパルス®は富士レビオ株式会社の登録商標です



生化学自動分析装置
JCA-BM8000G

資料取扱上のご注意

本プレゼンテーション資料及び弊社代表者が口頭にて提供する情報には、現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び所信に基づく記述が含まれています。

今後、経済情勢をはじめ半導体市況や研究開発投資など、弊社の業績に影響を与える様々な既知または未知のリスクによって、ここに述べられている見通しと実際の結果が異なったものとなることが否定できないことを、ご承知置き願います。

© 2019 JEOL